

茶山賛歌



○茶山賛歌

菅茶山の漢詩による「ふるさと中条」

○江戸漢詩による歌曲集より

声楽家 奥野 純子さん

ピアノ 山岡 珠代さん

前口上

作詩 山田拓志、補 奥野純子
作曲 芝沼紀子

神辺名物 数々あれど
音に聞こえた廉塾は
瀬戸内海の特別史跡
厳島神社と同格の
歴史の誉れ 謡われた
貴重な郷土の宝物

茶山先生 儒学の大家
江戸は中期の漢詩人
郷土を歌った数々の七言絶句
は

現代の私たちにもそのまま
気持ちの分かるものばかり

我が中条は 今もなお

先生の詩の その中に
箱には書や絵が収められ
机には幾冊もの本が置かれた
百姓の家がある・・・と

当時の中条 偲ぶれば
学ある詩人が多かった

茶山先生 散歩の時に
寺や農家に立ち寄って

みなと共に 詩を作り
楽しき時を 過ごしたと

詩にも詠まれて 今日に
歌い継がれて 永久に

歌い継がれて 永久に・・・

黄龍山に登る

現代語訳詩歌詞 佐々木龍三郎 補 奥野純子
作曲 石橋元嗣

おひさま 西に見えかくれ

お山の緑も ぼんやりと

遍照寺ってどこかしら

鼻歌まじりに 登っていたら

「おっと あぶない」

ぐらつく岩が足の下

こわごわ下界をのぞいてみると

広がる谷間は 松の波



黄龍山遍照寺全景

漢詩「登黄龍山」『黄葉夕陽村舎詩』後二―十二

彩翠模糊晚照春 彩翠 模糊として 晩照 春く

不知何處是黄龍 知らず いずれの処かはれ黄龍

狂調直踏危巖上 狂歌 直ちに踏む 危巖の上

屐底驚濤萬壑松 屐底 濤に驚く 万壑の松

この他 漢詩「即事」「上寒水寺路上」「黄龍山」

をわかりやすい現代語訳歌詞に訳された曲を披露された

さらに、「江戸漢詩による歌曲集」から「冬夜読書」

『詩集後三―十五』『蛩』『詩集後七―一』『遊吉野(芳野)』『詩集』後八―四』など漢詩4曲を歌っていただきました。

これらの漢詩の作曲は作陽短大名菅教授矢内直行氏
によるもので、今回初めて披露。矢内先生は当日会場に
足を運ばれており、会場からはお礼の大きな拍手があ
がった。詩吟等で聞くあっても、ピアノ伴奏での漢詩
は初めてで大変興味深く聞くことができた。

廉塾まつりが開催される

菅茶山生誕275年祭とコラボ
日時10月21日(土)場所 廉塾並びに菅茶山旧宅を中心に
午前 二弦琴や平家琵琶演奏、詩吟、
お笑いステージなど午後 踊り隊、お話と劇、お笑いステ
ージなど会場内には、うずみ寿司、山菜おこ
わ、おでん、コーヒーなども販売され、
多くの人でにぎわう。

また、廉塾保存整備工事の見学会が

4回実施され約120余名が参加。修復作業の進捗状
況の説明を福山市文化振興課職員から聞く○西福寺では「模型とパネルで知る神辺の歴史」展が
行われ100名超が訪れた。○「菅茶山顕彰会」かななべ街並み格子戸展の実施
七日市・三日市通の民家に、茶山ポエム絵画を展示し茶山ポエム絵画の取り組みも紹介する
○関連行事「ふるさと体験史跡めぐり」菅茶山の詩碑めぐりが実施され、西福寺・光蓮寺・
万念寺等の詩碑を巡る。また、三日市通の古民家や
「なまこ壁」などの街並みを見学。さらに茶山の漢詩
を読む体験を行う。

街並みウォークと格子戸展



記念講演「菅茶山と廉塾」

講師 西村直城先生

広島県立歴史民俗資料館学芸課長

一、菅茶山について

漢詩人 漢詩集『黄葉夕陽村舎詩』教育者。廉塾

・国特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」

宮島厳島神社（国特別史跡＋特別名勝）と並ぶ

・「菅茶山関係資料」は国重要文化財に指定された。

＊これらは誇り得る類い稀なステイタスである。



頼祺一氏や広島大学の協力を得て、茶山関係資料の調査に携わった。2004年、文化庁の指示を受け、中途、東北地方大震災のため中断のやむなきに至ったが、細やかな資料の精査を続け、遂に2014年、国重要文化財の指定に漕ぎ着けた。

二、何故『廉塾』は教科書に載らないのか

全国の主な私塾、適塾（大坂・緒方洪庵）懐徳堂（大坂）松下村塾（萩・吉田松陰）、鳴滝塾（長崎・シーボルト）咸宜園（日田・広瀬淡窓）などは高校の日本史教科書に掲載されているが廉塾はない。

篠崎小竹は、『遠思楼詩抄』初編序で、「淡窓は菅茶山と並ぶ有名な教育者で、ともに詩を重んじ、詩を用いて人材を育成した」と評している。

三、菅茶山と広瀬淡窓

共に江戸時代後期の儒学者で漢詩人として名を成し教育にも尽力した共通点の多い菅茶山と広瀬淡窓を比較してこの「何故」に迫りたい。

○茶山く父 備後神辺 菅波樗平 農業・酒造業

学歴、茶山19歳 市川某に古文辞学を学ぶ

24歳 那波魯堂に朱子学&和田泰純に医学を学ぶ

33歳 京阪地方遊歴、混沌社中と交遊

享和元年 福山藩儒となり藩校弘道館に出講

文化6年 『福山志料』編纂

文化12年 出府中、松平定信侯に招待される

文政2年 『風俗御問状答書』完成

○淡窓く豊後国日田 廣瀬三郎右衛門 代官所御用達

商人。中井竹山・履軒と知己

8歳 長崎 長福寺法幢上人らに学ぶ

16歳 福岡 亀井南冥・昭陽に学ぶ

18歳 大病で帰郷

文政2年 日田代官用人格

天保元年 代官所が塾経営に干渉する

天保13年 幕府が苗字帯刀を許す・大村藩に出講

弘化元年 豊後国府内藩に出講

四、廉塾（菅茶山）vs 咸宜園（廣瀬淡窓）

①施設（名称）設備

○茶山

安永4年、居宅に開塾→天明年間「金栗園」

寛政3年、前年新築の建物で開塾「黄葉夕陽村舎」

寛政8年、建物等を藩に献上→「神辺学問所・廉塾

○淡窓

文化2年、長福寺学寮に開塾、「成章舎」桂林荘

文化14年、咸宜園と改名

文政4年、咸宜園東塾落成

②学区・教育内容・教育方針・規約&心得

塾生は廉塾・咸宜園とも全国から集まる。平等主義

（身分・年齢・学歴不問）を取り、漢籍の講釈が中心

○廉塾く詩文は月6度の詩文会だけ（義務とする）

「廉塾規約」（45項目、塾・寮での共同生活重視）

入塾後は徹底した能力主義で評価。「月旦評」明治30年まで存続、門下生も高野長英、大村益次郎、上野彦馬（日本最初の写真家、龍馬撮影）、清浦奎吾（1924年内閣総理大臣）

五、後継者

○茶山（廉塾）

寛政12年 末弟恥庵死去

文化8年 都講頼山陽出奔・甥萬年死去

文政6年 都講北條霞亭死去

文政10年 姪孫・菅三を養子

文政10年 80歳で死去

○淡窓（咸宜園）

天保元年 弟旭荘に塾主を譲る

天保7年 旭荘東遊、再び塾経営

弘化元年 咸宜園の都講矢野範治（青邨）を養子とし塾を継がせる

安政3年 旭荘の長男・林外塾を継ぐ

安政3年 74歳で死去

六、茶山と淡窓の交流

寛政9年 淡窓15歳、50歳の茶山の名と詩を知る。

福岡遊学中、茶山が「詩の名家」と知る。

淡窓27歳、自作詩の批評を人を介し茶山に依頼

淡窓45歳、茶山揮毫の扁額「淡窓」を書斎に掲げる

文政10年、淡窓46歳、弟旭荘が病床の茶山を訪問、

数力月間介護にあたる。旭荘が辞するにあたり、淡窓

あての漢詩と遺品として硯を托す。

七、残された課題

幕末以後、天領の塾と福山藩の郷校の位置付けが関係したのではない。また、塾としての評価より茶山は漢詩という文学面での評価がなされているのではないか。

（顕彰会顧問 上泰二）

菅茶山生誕 275 年祭の様子



廉塾バラの展示



朝の打ち合わせ



袋詰め～ボランティアの協力



さあ、受付開始



茶山ポエム絵画の展示



会場の様子



記念講演 西村直城先生



藤田会長あいさつ



閉会挨拶 黒瀬副会長

司会 松岡理事
開会宣言 武田副会長

記念講演『菅茶山
と並ぶ教育者で詩を用
の多い咸宜園主廣瀬
話に出席者一同興味深

廉塾のポエム絵画展

(顕彰会顧問 上泰二)

入場者は予想を上回る120名。山陽新聞の取材を受けたこともあり、岡山県からの参加もあった。今日に至るまでの社会活動の実績とマスメディアによるカバー効果も絶大。内実とも好評。声楽家奥野純子氏の「茶山賛歌」では倉敷芸術大学矢内直行教授によるオリジナル作品(菅茶山の「江戸漢詩」による歌曲集より(新曲)が披露される。ステージ上にはスクリーンが設置され、茶山詩が映し出され爽快・新鮮であった。

菅茶山生誕275年祭成功裏に終わる
10月28日、菅茶山生誕275年祭を神辺文化センター小ホールで開催した。この会は5年毎に開催する「菅茶山の遺芳・遺徳を偲び、後世に伝える」定例事業。今回は「茶山賛歌」(奥野純子氏独唱)及び記念講演「菅茶山と廉塾」(講師西村直城氏)併せて会館ロビーに「茶山ポエム絵画」「廉塾バラ紹介」を展示。また、入場者には顕彰会作成の冊子「茶山ポエム絵画展30年の歩み」を配布した。

275 年祭参加者数

来賓	24
会員	27
講師等	5
一般	64
合計	120

一般参加内訳

町内	24
町外	27
不明	13